

# 記者クラブメディア著名解説委員・編集委員等へのアンケート

質問

朝日新聞・星浩(編集委員)

読売新聞・橋本五郎(特別編集委員)

毎日新聞・岸井成格(特別編集委員)

フジテレビ・和田圭(解説委員)

テレビ朝日・三反園訓(コメンテーター)

時事通信社・田崎史郎(解説委員長)

機密費が記者に渡されたことは事実か 自身が受け取ったことがあるか

弊社の記者が内閣官房機密費を受け取った事実は一切ありません。(朝日新聞)  
ご指摘のような金品を受け取ったことはありません。それ以外については存じ上げません。

知りません。 ありません。

お問い合わせのようなことはありません。(フジテレビ)

そのような事実はありません。(テレビ朝日)

そういう事実はまったく知りません。 ありません。

つかったこと、官房機密費からの支出と知る由もなかったこと、また祝い金も含めた会費がパーティー費用に充てられ「ふどころにし

## 『太田総理』が特集

さらに、テレビ局の内部でもついに追及の手が拳がった。6月18日、日本テレビ系『太田光の私が総理大臣になったら……秘書田中。』で、官房機密費のマスコミ汚染問題が特集されたのだ。

番組側は当初、政治評論家ら10数名に出演を依頼したものの、どうしたわけかほとんどの方に断わられたという。理由は、「興味がない」「その内容では出演

たわけではない」ことなどを書いていきます

ようやく記者クラブ側も、この問題の説明責任について、自覚し始めたようだ。

という。そんなことできないでしょう」と、記者へのカネの配布役にされそうになった体験を語った。

爆笑問題・太田光氏は、「マスコミが報道しない、メディアが口をつぐんでい

しない」「その話は無理」

など。結局、出演したのは政治評論家の有馬晴海氏と私の2名のみだった。私は米国出張中で、海外からの衛星中継での出演だった。

有馬氏は、「(かつて)支持率の下がったある政権の支持者から、『ウチの方からマル(おカネ)出てるかな?』という電話が来た。

しかも、(私に)幹事をしてジャーナリストらに(カネを)回してもらえないか

と認めた。

いずれにせよ、私を出演させたこの特集が放送されたのは、これまでの黙殺ぶりを考えれば画期的なことだ。とはいえ、「日テレは至

急内部調査せよ」などのより重要な私の発言の大部分がカットされたのは残念だ。

それにしても、出演を断わった10数名の政治評論家らは、まだ事態をわかっていないらしい。機密費という公金を受け取っていたことがわかれば、即刻筆を折

るのが世界のジャーナリストの常識である。いま「政治とカネ」で説明責任を果

たすべきは、小沢一郎でも鳩山由紀夫でもなく、我々ジャーナリストなのだ。

私自身の経験もいってこう。かつて、官房長官になつたばかりのある政治家と会食した際、帰り際にお土産を渡された。お土産まで拒絶するのは関係を悪くするだけだ。私はいつも「同額返し」の形を取る。関係をイーブンに保つため、会食代や貰ったお土産と同額分のお土産をこちらからも渡すのだ。

その際もそうしてお土産を持って帰ったところ、紙袋の脇に現金の入った封筒を見つけた。厚さから見て50万円ほどだったはずだ。慌てて夜中に返しに行った。政治記者やジャーナリストには、否応なく機密費の誘惑が付きまどってきた。問題は、それに手を染めるかどうかだ。川崎氏に続く、勇気ある告白を待ちたい。

だ」と発言。自らを象、福田赳夫や三木武夫をキツネとタヌキに喩え、田中派の支持で首相になった中曽根康弘を牽制した。

By The Way

海外投資のフロントランナー マネーポスト [www.moneypost.jp](http://www.moneypost.jp)

小学館